# 学　校　便　り　　琢磨

令和３年度　第 25 号　R3.12.24 三豊市立詫間小学校

## 教職員の異動

【転退職】

**村井　志帆　養護助教諭**　本年度４月から９か月間お世話になりました。１２月末で本校を去られ１月からは多度津町立多度津小学校に勤務されます。
大変お世話になりました。

【赴　任】

**多田　麻優子　養護教諭**　１月１日より、育休を終えて復帰いたします。
**犬伏　菜緒　　調理員**　１月１日より、本校給食調理場の調理員として赴任します。
**矢野　委紅恵　　調理員**　１月１日より、本校給食調理場の調理員として赴任します。
どうぞ、よろしくお願いいたします。

## なかよし集会！

１２月１７日（金）の５時間目。第２回「なかよし集会」が Google Meet を使って遠隔で行われました。

各クラスの「なかよしめあての振り返り」を、各学級の代表の子どもたちが発表してくれました。

今回も、児童会役員さんが挨拶や進行を全て執り行ってくれました。

なお、このなかよし集会では、「心の輪を広げる体験作文」の入選作文を私（校長）が、音読しました。その作文につきましては、許可を得て裏面に掲載しております。

## 和楽器体験学習！

１２月１７日（金）の６時間目。５年生は体育館で、「和楽器（三味線・尺八）体験学習」がありました。

三味線や尺八といった和楽器の演奏を聴かせていただいたり、演奏に合わせて『花笠音頭』を踊ったりしました。

演奏の後は、３つのグループに分かれて、三味線や尺八、太鼓などの演奏体験をしました。

## 栄光を讃える！

【貯蓄に関するポスターコンクール】

ＪＡバンク賞　４年　**磯崎　帆孝**　　３年　**吉田　悠伸**　　１年　**磯崎　日快**

【家族ふれあい・あいさつ運動・わたしの夢作品コンクール】

絵画　入選　　１年　**松田　明香里**

【２学期読書目標達成者】　　全校で**３４９人**（73%）に担任から「読書賞」をわたしました。

敬称は略します。おめでとうございました。

優秀作品集

１２月１７日の「なかよし集会」で紹介した作文です。

小学生区分

香川県知事賞

# 車いすって楽しいな

高松市立国分寺南部小学校　四年　湊（みなと）　良明（よしあき）

ぼくは、仏生山公園で開さいされたパラスポーツ体験会に参加した。その中でも、一番楽しそうだと思ったのが、車いすバスケットボールだった。

三年生の国語の時間に車いすについて学習した。車いすを押すのも、自分で移動するのも『とっても大変だ。』と思っていたのに、その車いすに乗ってバスケをするのだから、気になって仕方がなかった。

お母さんにお願いして、体験会に申しこんでもらった。会場に着くと、ちゅう車場で車いすに乗った男の人がいた。車いすをこぐうでは、とても力強くて、車いすに乗っているというだけで、何もぼくのお父さんや大人たちと変わりなかった。

ただ、声をかける勇気がでなかった。どう話しかけていいかわからなかったのだ。いつもならできるあいさつが、『こんにちは。』の一言が出てこなくて、ただじっと見てしまった。悪いことをしている気分だった。

受付をすませて、体育館に入るとコートの中では、すでに車いすに乗った選手が、ウォーミングアップをしていた。八の字に広がった細い車輪は、ぼくが授業で見た車いすとはちがって、かなりのスピードが出る。前に進むのも、後ろにもどるスピードもすごく速くて、本当にかっこ良い。向かいのコートでは、シュートが次々に決まっていく。何となく、『ぼくにもできる。』と思っていた。

体験を始める前に、車いすの乗り方の説明を受けた。車輪を動かしている時に、急に足が出ると大きなケガをするため、フットレストに足を固定された。他にも、体当たりのプレーがあるため、ベルトでおなか周りも固定する。床に落ちるとあぶないからだ。

ぼくたちのグループに教えてくれたお姉さんは、ふだんから車いすの生活をしている人ではなかった。たくさんの人に、車いすでスポーツをしている人のことを知ってもらう活動をしているのだ。お姉さんは、

「車いすに乗っているのは『事故でけがをした。生まれつき足がなかった。人それぞれに理由があります。面白そうにジロジロ見られると、悲しくなります。だから、今日、体験会に参加してくれたみんなには、本当は、みんなと同じようにスポーツができるんだよ。車いすに乗っているから変な人。と決めつけずに、あいさつをしてね。』と、たくさんの人に教えてくれると、とってもうれしいです。」

と話してくれた。

ぼくは、ちゅう車場でのことがはずかしくなった。だから、体験が始まってすぐに、選手のみなさんに向かって、一番大きな声で、

「お願いします！」

とあいさつをした。すると、みんながニコニコしながら、

「楽しくやろう。がんばろうな。」

「来てくれてうれしいよ。」

と声をかけてくれた。とても気持ちがよかった。さっきまでの気持ちも晴れた感じがした。

その後、車いすの操作を習った。前進はスピードが出て楽しかったが、後ろ向きは大変だった。後方が気になって首を動かすと、首を向けた方向に車輪が動いてしまうのだ。さらにむずかしかったのは、すわったままでのシュートだった。ゴールにすら届かない。選手のみなさんが、軽々と決めていたシュートは、練習の成果だと実感した。

もし、ぼくが事故で足を失ったら、スポーツができるのだろうか？と考えたけれど、体験で出会った選手のみなさんを通して、車いすがあったら楽しくスポーツができるのではないかと思った。そして、みんなの笑顔を見ていると、自然と楽しい気分になった。これからは、車いすの方にもはずかしがらずにあいさつするぞ！参加して本当に良かった。

「心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスター　優秀作品集　2021」より